

神々の古事記
冠者殿社

「山幸海幸」

邇邇芸命は笠沙の岬で、みめうるわしい乙女に出会った。命がその乙女を妻にしたいと父の大山津見神に伝えると、木花之佐久夜毘売、姉の石長比売と一緒に添えて嫁がせてきました。しかし、姉は顔が醜かったので返されてしまいます。その夜、ふたりは寢所で一緒に寝ました。すると、翌日には毘売が子供をみごもります。一晩で子供を妊んだのはあやしいと疑った命に対し、毘売は産殿にこもり火を放って、もし天神の子ならば無事に生まれるでしょうと言われました。火が盛んに燃え上がった時に生まれたのが、火照命（海幸）、次に火須勢理命、次に火遠理命（山幸）の三柱の御子が誕生しました。



この山幸彦の孫の神倭伊波礼毘古命がのちの神武天皇です。廣峯神社の本殿裏にある冠者殿社には、産霊の神さまである高皇産霊神、神皇産霊神と一緒に、木花咲耶姫神（木花之佐久夜毘売）をお祀りしています。この神さまは、お産のときに産殿に火を放ち、無事に三柱の御子をお生みになられたことから、安産・子授けの神さまとして広く信仰されています。また、その名から生花業、その美しさから美容院や理髪店の人々からも崇敬される神さまです。